

## 日野宿発見隊代表、滝本光男さんから加地勝さんへ

平成 23(2011)年 4 月 9 日(土)、平成 23 年度の日野宿発見隊総会が開催され、滝本光男代表から加地勝さん(豊田在住)への代表変更が承認されました。

滝本さんには、発見隊が創設された平成 18(2006)年 6 月から丸 5 年代表を務めていただきました。

図書館の委託問題がきっかけとなり、地域にとって役立つ図書館とはどうすればいいのかと考えたとき、図書館で座して待つのではなく地域へ飛び出そうと、地域の商店会や日野の歴史と民俗の会、さらに地域で活躍する方々に呼びかけてスタートしたのが 5 年前でした。

その当初から、滝本さんは図書館のすぐお隣さんということもあり、何かあると、私たちが駆け込めば相談にのってもらえる頼もしい存在でした。滝本さんは奥さんといっしょに理容店を営業され、毎日、朝早くから地域の清掃作業に始まり、それが済むと早速お客さんを迎えるという忙しい日々を過ごされています。その上、ふれあい商店会の代表として地域の活性化にも積極的に取り組まれています。



滝本夫妻に感謝のことばを  
かける渡辺分館長

このように多忙な滝本さんにもかかわらず、日野宿発見隊の代表を快くお引き受けいただき、次から次へとメンバーから出されるさまざまなアイデアを実現させるために、代表として骨を折っていただきました。

しかし、こうして滝本さんが発見隊の活動にご協力いただけたのも、何といたってもご理解ある奥さんの存在があったからではないでしょうか。

お店のほうが大変なのにもかかわらず、イベント開催時には前々から特製おでんやカレーライスの準備に奔走され、イベント当日参加者の皆さんに喜んでいただくということが度々でした。これも奥さんのご支援なくしてはできなかったでしょう。滝本さんご夫妻にはこの 5 年間本当にお世話になりました。日野宿発見隊一同、心より御礼申し上げます。

なお、滝本さんには今後も引き続き発見隊のメンバーとしてご協力いただけるとのこと、これからもよろしく願いいたします。

さて、2 代目代表に就任された加地勝さんは、北海道出身で現在豊田在住です。「加地蔵(かじぞう)さん」と呼ばれるほど、お地蔵さんや石仏に造詣の深い方です。日野宿発見隊では「まち歩き」の案内人としていつもお世話になっています。70 代とは思えないほどの健脚ぶりには常々頭がさがります。2 代目代表としてのご活躍を祈念します。

## 日野宿蔵めぐり（第33弾）

平成 23(2011)年 6 月 11 日（土）の午前中、日野宿内に残る蔵を見学して回りました。

道案内は古民家建築などに造詣の深い建築士の川崎和彦さん。あいにくの雨模様にもかかわらず 28 名（スタッフ込み）の参加がありました。

まず、日野図書館内で簡単な説明を受けた後、日野駅前郵便局脇の渡辺家（金子橋）の蔵を訪ねました。

ご当主の渡辺良勝さんご夫妻から、蔵にまつわるエピソードなどを交えて、蔵の 1、2 階を案内していただきました。太いケヤキの梁など蔵を支える部材にまず圧倒されてしまいましたが、お興入れに使われたという長持ちや、歴史を感じさせる調度品の数々にも、非日常的な空気を存分に味あわせてもらいました。この後、建築士の川崎さんから、蔵の構造などについて詳細な説明がありました。



昨年東京都歴史的建造物に  
指定された渡辺家の蔵

続いて、明日には取り壊されるという小池稔男家（仲町）の蔵を外から見せていただいた後、佐藤元雄家（仲町 屋号「藤屋」）を訪ねました。同家は東隣りの上佐藤家（現佐藤信行家）の分家で、母屋は下佐藤家、現本陣と同時期に建てられたとのこと、その母屋の西隣りに蔵がありました。



扉の前で説明する佐藤元雄さん

扉の開け閉め方法から始まり、幼いころに蔵に閉じ込められたという微笑ましい話、蔵には長男しか入れないという仕来りなど、ご当主の元雄さんから貴重なお話を伺いました。白蛇の抜け殻が蔵の守り神として大切に祀られているのにはちょっと驚きました。なお、今回特別に江戸時代の趣をそのまま残したお庭も見学させていただきました。

次に訪れたのは坂田家の蔵です。十七代目ご当主坂田敏久さんから説明していただきました。同家は綿の取引に関わる仕事をしていたことから屋号を「綿久」というそうです。

この後、日野宿の東端にある有山董家の日野銀行跡とされる建物と米蔵を外から見学しました。右の写真は甲州街道に面した有山家前付近を撮った写真（渡辺良勝家所蔵）です。

この当時街道に面して大きな蔵が連なっていたのがよくわかります。



予定ではここで終了のはずでしたが、急遽、同行していたカメラマンの井上さんの紹介で、溝呂木家の蔵を見せてもらうことになりました。



通風性を確保するために屋根との間に空間が設けられた蔵

現当主の溝呂木さんによれば、明治26(1893)年の日野宿の大火で母屋を焼失した同家でしたが、八王子の千人同心組頭の子孫塩野家から買い取って移築されたという母屋が、現在、小金井の江戸東京たてももの園に保存されているといわれています。蔵そのものの建築年は不明のようですが、歴史を感じさせる、形のとてもよい蔵でした。

同家を後にして、一同岐路に着いたのですが、有山家の敷地内に居を構えておられる有山至さんが在宅とわかり、ご挨拶に伺うと、急遽、本家の「上段の間」を見学させていただけることになりました。通常は非公開のところを本当にありがたいことです。

この「上段の間」はかつて本陣のところにあったもので、明治26(1893)年の日野宿の大火のあと、佐藤彦五郎が息子彦吉のために、養子先である有山家に曳き家して移設したものだといえます。本陣にあったときに明治天皇が休憩されたという由緒ある建物です。

部屋から見える庭園がまた格別で、ここだけ時間が止まったかのようでした。

雨を押しての開催で参加者の方々にはご不便をおかけしましたが、最後にとっても素晴らしいご褒美をいただいたようで、開催者としてもホッとしています。日野宿に残る歴史的建造物も次第に姿を消していく昨今ですが、今回訪ねた蔵がこれからも大切なまちの遺産として残ることを願わずにはいられません。そのためにも、持ち主ばかりに負担を求めるのではなく、公的な支援が必要ではないかと感じました。

## 研修旅行「信州野沢ぴんころ地蔵&海野宿」

平成 23(2011)年 7 月 25 日（月）、参加者 18 名を乗せたマイクロバスは、いなげや日野駅前店を午前 8 時 22 分に出発。

八王子インターから中央道に入り、途中談合坂での休憩時間を含め 2 時間ほど走った後、須玉インターで降りて、すぐ近くの道の駅で買い物がてらの長めの休憩の後、佐久甲州街道を北上し、11 時 45 分ごろ小海町高原美術館に到着。

有山至さん、敬子（ゆきこ）さん経営の「カフェ花豆」にてボリュームたっぷりの昼ごはん。

その後、長野県佐久市にある「信州野沢ぴんころ地蔵」を見学。

そこから 1 時間弱のところにある東御（とうみ）市の海野宿を散策した後、上信越、関越自動車をはた走り、予定より 1 時間遅れの午後 7 時半過ぎに無事日野に戻りました。

### 元祖「ぴんころ地蔵」見学

今回の研修旅行は今話題になっているぴんころ地蔵を、日野宿にも建立できないかとの話があり、まずは元祖「ぴんころ地蔵」を見学させてもらおうとのことで開催しました。

佐久市野沢は旧佐久甲州街道（佐久往還とも）と富岡街道が交差するところで、江戸時代には豊かな米どころだったそうです。まちを流れる清流千曲川にはアユやハヤなどたくさんの魚が棲息し、水田では佐久鯉の養殖が盛んだそうです。清流と米どころという、まるでかつての日野宿のようです。



ぴんころ地蔵尊前で説明して  
くださる市川さん



前代表の滝本さんとかじぞうさん  
こと加地現代表

この佐久地方は、豊富な川魚や野菜、果実、山菜など自然の恵みは健康長寿を生み出し、また、仕事熱心さや信仰心の深さが日本でも有数の長寿の里としたのではないかとされているようです。

ぴんぴん（健康で長生きし）ころり（寝込まず楽に大往生する）という願いから「ぴんころ地蔵尊」と命名、建立されたそうです。

当初から関わってきた成田山薬師寺の参道入口にある「魚甲」のご主人市川さんによれば、ここまで来るのにやはり十数年の歳月がかかったといいます。野沢商店街振興組合の発案で始まったものの、その後まちぐるみの取り組みとしたことで今のような賑わいをえることになったとも。多額の寄付をしてくれたという人形屋さん。同行した人形屋の鈴藤さんもお存じでした。参道入口に立つ山門も地蔵の覆屋も賽銭箱もすべて寄進されたものといいます。信心深い方々がほんとうに多いです。参道では毎月第二土曜日に山門市が開かれ、大変なにぎわいだそうです。グッズも多種多様販売されていましたが、この日仲店には占いまで出ていました。お話を伺い、日野宿の地蔵尊建立に向けての夢もいっそう膨らんだような気がします。

## 「カフェ花豆」にて

地蔵尊を訪ねる前に昼食をいただいた小海町高原美術館にある「カフェ花豆」について。有山至さん手づくりの生ハムと敬子（ゆきこ）さん特製の野菜たっぷりのカレーライスとデザートをいただきました。

かなりの大皿にもかかわらず、新鮮な野菜が豊富だったからでしょうか、参加者のほとんどが残さずいただきました。トマトやブルーベリーとマッチしたアイスクリームもおいしかったです。至さん、敬子さんごちそうさまでした。



小海町高原美術館前で有山夫妻を囲んで

## 「海野宿」見学

びんころ地蔵尊見学のあと訪ねた信州北国街道の海野宿（東御市）について。この宿は寛永2（1625）年に開設され、中山道と北陸道を結ぶ重要な街道で、佐渡で採れた金の輸送にも使われたそうです。街道入口の白鳥神社のケヤキの大木が目を引きました。



全長約 650 メートルの宿内には街道の中ほどに用水が流れ、両側には趣のある町並みが続きます。現在も住まいとして使われています。学校帰りの少年も……。



もちろん今回も看板に目がとまりました。谷師匠の教えに従えば、やはりこの看板はいいできではないかと素人ながらに感じました。

馬に与える塩をもった石。  
この女性は馬ではありません！



かつて研修旅行で訪ねた栃木宿や由比宿とはまた趣の違う海野宿でした。

## 第4回日野宿子ども発見隊

# 「日野の用水であそぼう！」（第34弾）

開催日 平成23(2011)年7月30日(土) 午前9時30分-12時  
会場 新東光寺地区センター前の日野用水と田んぼにて  
講師 鶴田大三郎さん 谷享司さん 井上博司さん  
参加者 子ども16名 保護者10名 スタッフ13名 計39名

朝目覚めたときには雨音が聞かれ、開催取り止めかと危ぶまれましたが、8時ごろには雨もあがり、午前中は何とか持ちそうという天気予報を信じ、開催を決定しました。

各参加希望者宅に電話を入れあと、網などの用具類を車に乗せて現地へ出発。

戸向クリーニング店で新東光寺地区センターの鍵を借りたのち、本日の案内人鶴田さんたちとレクチャー用の器具の準備にかかりました。

ほどなくして、あいにくの空模様にもかかわらず、参加を希望したほとんどの子どもたちが来てくれました。

開催挨拶のあと、早速、谷班、井上班、鶴田班の3グループに別れて、田んぼのなかの用水や東光寺用水に入り生き物探しにかかりました。大人のほうが夢中になるのがこのイベントの特徴です。



1時間ほど魚とりを楽しんだあと、新東光寺地区センターに戻り、冷えたオレンジを食べました。そとあと、鶴田先生から、捕まえた魚など水生生物についての説明をもらい

ました。今回は鶴田先生も驚くほどたくさんの魚を捕まえました。先週浅川で同様のイベントを行ったときはほとんど魚がいなかったそうです。



右端が「オイカワ」



日野ケーブルテレビの  
桜井さんも撮影に奮闘中（中央）

鶴田さんによれば、特別参考出品としてカメラマンの井上博司さんが多摩川で捕獲したモクズガニ、夜行性のため今回は用水で採集できませんでしたが、この用水で過去に何度か確認しています。特記すべきことは、他の生き物をたくさん食べるトンボの幼虫も多く生息していることです。このことは餌となるさまざまな生き物がこの用水には多く生息していることを示しているからです。

説明のあと、家で飼えそうな魚は各自持ち帰り、それ以外は用水に放しました。

右の写真は井上さんが多摩川でカニかごという仕掛けで捕まえた2匹のモクズガニのうち1匹をうれしそうに持つ還暦を迎えたばかりの渡辺館長です。

かく言う報告者も初めて見るモクズガニに興味気味でした。もちろんこのモクズガニは渡辺館長が食わずに、井上さんが持ち帰りました。



さて、4回目となったこのイベントですが、いつも多くの子どもたちが参加してくれる嬉しい限りです。こうして楽しめるのも身近に素敵な自然が残されているからこそ。

これからも子どもと大人がいっしょに遊べるこの空間を大切に守っていききたいものです。なお、当日は日野ケーブルテレビの取材がありました。



## 「こんにちはいっと6けん」の取材を受ける！

平成 23(2011)年 8 月 20 日（土）の夕方 5 時 30 分から始まった運営委員会（スタッフ会議）にNHK「こんにちはいっと6けん」のレポーター西村さんが取材に見えました。

平成 21(2009)年 6 月に同番組で取り上げていただいてから 2 年が経ち、再度日野宿発見隊を取材したいとのことで急遽運営委員会に参加されました。



左から 3 人目が西村レポーター

カメラが入ると思って着飾ってきた人もいましたが、残念ながら今回はカメラは入りませんでした。番組制作のための事前取材として、発見隊メンバーの活発な発言を熱心に聞かれながら、適宜質問をなさっていました。8 時近くに閉会になるまで同席され、こちらから渡された盛りだくさんの資料をかかえて戻られました。ほんとうにお疲れさまでした。

## 日野宿夏祭り（ふれあい子ども横丁&夕涼み会 第 35 弾）

8 月 27 日（土）、午後 3 時 30 分から日野宿交流館にて日野宿夏祭りを開催しました。

テント張などの準備にかかった 9 時頃には、霧雨が降り心配でしたが、運よく午後からは曇天ながら何とか天気もってくれ、第一部ふれあい子ども横丁、第二部夕涼み会を無事開催できました。ご協力いただいた皆さま、心より御礼申し上げます。

なお当日はNHKの「こんにちはいっと6けん」の取材がありました。

北原のトンガラシ地蔵を見学するシーンやこども横丁、大昌寺の時の鐘の実演などのシーンの撮影がありました。9 月 8 日（木）のNHKの「こんにちはいっと6けん」で放映されました。



北原のトンガラシ地蔵前で子ども  
たちに解説する松本保さん



お決まりの集合写真撮影



ひのっち神輿。  
新奥多摩街道入口交差点付近左の塀には  
昔の写真が展示されています。



仲町やよい会によるうちわ工作



谷享司さん手づくりの特製ゴム  
鉄砲も登場





大昌寺で杉浦住職のお話を  
伺った後、「時の鐘」の実演



夕涼み会



日野囃子保存会の演奏／長年ご協力いただいて  
いた内野さん（左端）は今年他界されました

この後は恒例の映写会。今回は日野宿の枝郷8か所付近の写真を皆さんに見ていただきました。写真提供者のひとり万願寺の土方尚功（よしのり）さんにもお出でいただき、昭和30年代前後の懐かしいお話をさせていただきました。

## 一中道徳授業地区公開講座講師派遣

平成23（2011）年10月1日（土）、午前の約1時間、3年生向けの道徳授業の講師として、日野宿発見隊のメンバーが招かれました。

一昨年からはじめたこの道徳授業は、子どもたちに郷土愛を育ててほしいとの趣旨で取り組まれているということですが、今回は4クラスを各2名ずつ、計8名で受け持ちました。

授業の初めに、担任自身のふるさとについての思いが語られたあと、日野宿発見隊が用意した昔の日野の様子をとらえた写真や映像を見ながら、各担当がこれに解説を加えました。

初めは少々ぎこちなさもありましたが、次第に緊張がとれ、各クラスから笑い声が聞こえるほどでした。日頃から地域で活躍する先輩たちの熱い思いが後輩たちの胸に少しでも響いてくれたらうれしいですね。

なお、この日は公開講座のため保護者や地域の方々も見学されていました。

また、日野ケーブルテレビ、日野ニュース、さらには読売新聞の取材も入りました。

そんなわけで生徒たちもちょっといつもと違う雰囲気だったかもしれません。



井上さんと森山さん

この写真の撮影場所は……。じゃあ、これからその場所へ行ってみよう！

その場所とはなんと体育館脇を流れる日野用水でした。

授業が終了したあと、教師や保護者向けに、日野宿発見隊のこれまでの取り組みや先に刊行した絵本について、ホームページも交えて、井上さんと石嶋より報告しました。

## 展示パネルいたずらされる！ - 八坂神社玉垣 -

平成 23(2011)年 10 月 25 日(火)朝、八坂神社の宮司さんから玉垣に展示中の写真パネルが何者かにいたずらされたとの連絡が入り、早速駆けつけてみると、写真のような姿になっていました。表側から強引に引っ張ったようです。

昨年、日野駅前の看板がパンチを食らわされ中央部分がへこんでしまった 1 件がありました。今回は 6 枚ものパネルが一度に傷つけられ、本当に情けない限りです。

持ち帰り修整しようとしたのですが、なかなか元に戻りません。怒り心頭です。



## モクズガニの脱皮

今年の夏開催した日野宿子ども発見隊「用水であそぼう」のとき、隊員の井上さんが多摩川でとってきたというモクズガニを子どもたちに見せてくれました。このモクズガニ、その後、井上さん宅で大切に飼われていたところ、このほど、写真のように脱皮したとのこと。早速、日野図書館内にて展示させていただきました。

どうしてこんなに見事に脱皮できるのかと皆さん不思議がられることばかり。

脱皮する際、殻を柔らかくする物質を体内から出すらしいのですが……。



モクズガニの抜け殻

## 用水を清掃しよう！（第38弾）

平成23(2011)年11月26日（土）、午前9時30分から1時間ほど、日野駅すぐそばを流れる日野用水上堰の清掃を行いました。

参加者は4名と今回は小人数でしたが、いつものようにゴミはたくさん回収されました。昨年にくらべ、空き缶が多かったのには驚きました。



写真は中央線下のトンネル内ですが、小魚がたくさんいて、思わず歓声を上げてしまいました。ゴミを投げ入れる人には、この魚たちの存在がわかってないのじゃないかな。



日野煉瓦の橋脚



ゴミの山

この付近を掃除するときの楽しみは、下から日野煉瓦や線路部分が見られることです！  
鉄道ファンには決して教えられない秘密です。

それにしてもゴミが多すぎますね。

なお、この後、大昌寺近くの親水広場も清掃し散会しました。

次回はもうちょっと参加者が増えるといいのですが。

## 日野宿けんころ地蔵誕生！（番外編）

地元有志で結成された日野宿健康長寿地蔵尊建立実行委員会により進められていた「日野宿健康長寿地蔵尊」、通称「日野宿けんころ地蔵」が完成し、この度、日野図書館裏にある普門寺に寄進されました。

平成 23(2011)年 12 月 11 日（日）、午後 1 時 30 分から、普門寺の入口脇に完成したお堂に安置されたお地蔵さまの開眼供養が執り行われました。



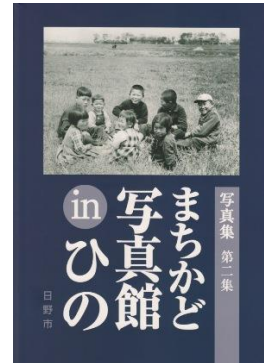
当日は好天にも恵まれ、多くの方々に見守られるなか、開眼大導師に高幡山金剛寺貫主川澄祐勝大僧正、開眼導師に普門寺川澄祐英住職をお迎えし、盛大に開眼式を執り行われました。ここに正式に「日野宿健康長寿地蔵尊」が誕生しました。

このお地蔵さまの寄進にかかわれた多くの皆さんの思いが叶うといいですね。

## 写真集『まちかど写真館 in ひの』第二集刊行！

平成 24(2012)年 3 月 10 日(土)、待望の写真集『まちかど写真館 in ひの』第二集ができあがりました。3 年前に刊行された第一集は大変好評で、すぐに品切れになってしまい、皆さんにはご迷惑をおかけしましたが、今回は日野市の写真集作成委託を受けての刊行となりました。

地域の皆さんから提供いただいた 1,500 点にも  
のぼる貴重な写真のなかから、日野宿内に加え、



東光寺、四ツ谷、万願寺など、いわゆる枝郷の地区を掲載しています。構成は第一集と同じで、明治から平成までの写真約 80 点を現在の写真と対比させた形態となっています。特に今回は、仲田の森ふれあいホールの完成を記念して、蚕糸試験場桑園跡地や日野橋、日野の渡しなどの特集ページも設けました。

現在まち中に展示中の約 120 点の「まちかど写真館」とともに楽しんでいただければ幸

いです。また、第一集に加え、この第二集が日野の歴史を知る基礎資料として、学校で、地域で大いに活用されることを願っています。

なお、3 月 18 日(日)に日野宿交流館にて、ご協力いただいた方々をお招きし、写真集『まちかど写真館 in ひの』第二集の刊行を祝う会が開催されました。開催にあたり宇津木日野市立図書館長の祝辞をいただいた後、早速できたての写真集を手にしながらしばし昔話に花が咲きました。この日の様子はケーブルテレビでも放映されました。



当時のエピソードを語る  
安西さん



## 弥生のまち歩き会（第40弾）

平成24年3月24日（土）、午前9時から、現在展示中の「まちかど写真館 in ひの - 万願寺・万願荘・東町 -」（写真）を見ながら、万願寺・万願荘・東町方面を訪ねてきました。参加者はスタッフを含めて 名でした。

天気予報では雨もあがり暖くなるというので、薄着で参加した人も多く、花粉症の心配より風邪をひかぬかと気がかりでした。

それはさておき、案内人の谷富二さん（谷戸在住）のほか、現地万願寺で説明をしてくださった土方尚功さん、生沼和彦さん、岩澤泰宏さんには大変お世話になりました。長年現地に住まう方々から地元の移り変わりについて直接説明してもらえるこのまち歩き会はやはり楽しいイベントです。



旧渡船場道入口付近にて



準備していただいた資料をもとに説明  
して下さる土方尚功さん



自宅の蔵を前にして説明して  
くださる岩澤泰宏さん



## 事務局からのお知らせ

日野宿発見隊誕生の仕掛け人、日野図書館分館長渡辺生子さんが3月末をもって定年退職いたしました。これからは宮城県栗駒市をベースにボランティア活動など主体に新たな人生を歩み出すとのこと。在職中はそのユニークなキャラクターをして、地域の皆さまに愛され支えられ、大変充実した図書館員生活を送れたと申しておりました。渡辺に代わりこの場をお借りして御礼申し上げます。なお、日野宿発見隊は今後も継続して活動を展開してまいりますので、どうぞ皆さまご支援ご協力のほどよろしくお願いいたします。

